

青森市の市街地の東部に位置する合浦公園は、春ま
つりの会場や海水浴場など
で多くの市民に親しまれて
いる公園である。合浦公園の歴史は、もと



The Aomori Park.

一其 内ノ園公森青

明治末期の合浦公園（青森県史編さん資料）。

右が「三誓の松」で中央が「相生の松」。これらの松の周辺が旧奥州街道にあたる。

弘前藩士の水原衛作が豪商の
の木村莊助ら有志者ととも
に、1881（明治14）年
に創設の認可を受けたこと
に始まる。1873（明治
6）年1月の公園制度によ
れば、公園と指定されるに
は人口が多く経済的に発展
している地域である必要が
あった。そして名勝地のよ
うに人々が集まる場所で、
従来から無税の土地である
という厳しい条件を満たさ

がっほ
合浦公園通史①
公園創設者水原衛作
（えいさく）
中園 美穂
（青森県史編さん調査研究員）

ねばならなかった。

この条件を満たしたのが、
現合浦公園を東西に走る廢
棄道（旧奥州街道）であり、
当時名木とされていた「三
誓の松」の近くが条件に見
合う名勝地とみなされた。

近代の公園制度によって
誕生した公園は、東京など
大都市に位置する神社境内
や城趾などを前身とするも

のが多かった。合浦公園の
ように廢棄道（旧奥州街道）
を利用した公園というのは
珍しかった。

廢棄道が公園とされたた
め、当初の公園の形や規模
は現在の公園とはだいぶ
違っていた。公園の東西を
横断する廢棄道すべてが公
園となったわけではなく、半
分以上を公園とし、残りは
公園を利用しやすくするた
め活用された。

これ以外に、水
原衛作は公園の北
側と南側に、公園
よりもはるかに広
い彼自身の所有地
（後に公園附属地
となる）を接続さ
せた。公園として体裁のよ
い広さと形を確保しようと
したのである。

だが当時の公園制度では、
水原の所有地は私有地であ
るため、正式な公園とは認
められなかった。そのため
彼は自分の所有地も含めた
広大な土地を造園すること
になった。

水原の造園事業には、灯

籠を寄贈した豪商の二代渡
辺佐助や、積極的な助力を
惜しまなかった県令の山田
秀典など、好意的な人が存
在した。しかし反面、豪商
たちの庭園づくりだと見な
す人も多かった。公園創設
という、斬新で独自の事
業を妬み嫌う人々は結構多
かったのだ。

こうして協力者と資金不
足により、公園の創設は頓
挫しかねない状況になった。
公園創設に積極的だった山
田県令が、1882（明治
15）年1月に死去したこと
も、水原にとっては大きな
打撃だった。

それでも水原は公園の完
成を信じて、日夜造園作業
を継続したが、体調を崩し
1885（明治18）年4月
に死去した。すべての人々
が楽しめる公園をつくらう
とした水原衛作の遺志は、
翌年に実弟の柿崎巳十郎へ
引き継がれることになった。